

「学校地域WIN-WINプロジェクト」  
フォーラムについて

【主旨】

- ・参加者全員が組織や立場を超えて意見交換
- ・学校と地域との新たなマッチング

【参加者：約100名】

- ・県立学校の生徒・教員、島根県教育委員会・  
同県立学校の生徒、企業、NPOなど

令和3年

1月13日（水） 13:30～

開催方法:オンライン

## 学校地域WIN-WINプロジェクトフォーラム

### 次 第

#### 1 開 会 (13:30～)

○挨拶

埼玉県教育委員会教育長 高田 直芳

#### 2 全員参加グループセッション (13:40～)

○第1部 良い学びをデザインする (13:40～)

○第2部 良い学びを実現するチームづくり (15:10～)

小グループ (5人) で生徒と大人が協議します

〈参加者〉約100人

生徒・・・埼玉県

小鹿野高校、小川高校、春日部女子高校、坂戸高校、志木高校、  
不動岡高校、皆野高校、宮代高校

島根県

出雲農林高校、隠岐島前高校、情報科学高校、平田高校、松江東高校、  
吉賀高校

関係者・・・県立学校教職員、自治体職員、企業・NPO 等

ファシリテーター 豊田 庄吾 氏 (隠岐國学習センター長)

【略歴】

福岡県大牟田市出身。大手情報出版会社を経て、人材育成会社にて大手企業・中央省庁の研修講師を務める。また、経済産業省の起業家教育促進事業で、全国300校以上の公立学校にて起業家精神育成の授業実績あり。2009年11月海士町 (あまちょう) に移住。高校魅力化プロジェクトに参画し、高校連携型公立塾、隠岐國学習センターを立ち上げ、現在同センター、センター長。学校と地域が一体となった人づくりの実践者として、奔走中。島根県社会教育委員。総務省地域力創造アドバイザー。

#### 3 閉 会 (16:25～)

# 令和2年度 「学校地域WIN-WINプロジェクト」フォーラム

## 教育長挨拶（要旨）

- 今回のフォーラムは、これからの変化の激しい時代を生きる子供たちが、高校生の時にとどのような力を身に付け、大人たちがそれぞれの立場で何ができるのかを考える機会になればと考えております。
- 平成30年度に、生徒たちの実社会からの学びを充実するとともに学校の力を地域に生かし、学校・地域が共にWIN-WINな関係となるようこの事業を立ち上げました。
- この事業は、生徒たちが学び考え、行動したことが「実社会で役に立った」という体験が、地域の様々な場所で起こることを願って始めた取組になります。
- フォーラムでは、組織や立場を超えて、生徒や大人、学校と企業などが共に意見交換を行っており、これをきっかけとして、地域や企業との繋がりや意義を深く理解し試行錯誤しながら、多様な探究活動を展開する学校が、少しずつ増えてきております。

## フォーラムの概要

- 日 時：令和3年1月13日（水）13:30～16:30
- 開催方法：オンライン会議システム
- 参加者：県立高校の生徒と先生、自治体職員や企業、NPOなど約100名
- 目的：学校で「良い学び」を作っていくために必要となるチームづくりのヒントを探す
- 内容：参加者全員が21のグループに分かれてのグループセッション



【ファシリテーター：豊田庄吾氏  
（隠岐国学習センター長）】

- 【第1部】・参加者がそれぞれの立場から「学校の学びを良くするためにできること」について、自分の考えをグループ内で発表
  - ・その内容を掲示板に入力し、全体で振り返りを行いながら参加者全員で情報共有
- 【第2部】・「良い学び」を取り組んでいくためのチームづくりについて意見交換

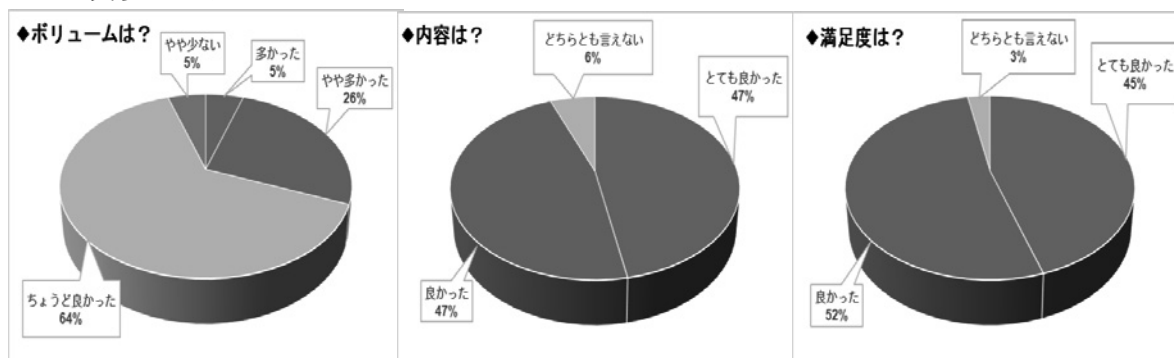
### 「WIN-WINプロジェクト」フォーラム 全体共有用

| グループNo. | 各グループで出た話をこちらに共有してください（キーワードでも可能）   | セッション2で、各グループで出た話をこちらに共有してください（キーワードでも可能）   |
|---------|---|---|
| 1       | 街のいい処を学び、高校生自ら街の食堂と交渉し「マコモタケ」を使ったかき揚げを作る。自ら交渉したり、メンバーと協力することができたことが成果。探究でしか学べない。また、今まで興味のなかった自動車販売を探究し、若い世代に車が売れない課題を知り興味があった。人と関わることができる探究活動が良かった。 | チーム作りには、まず多様性を認め、お互いの意見を尊重する事、対等に意見を出し合うことが不可欠。一部のメンバーも納得しなければ、興味関心を同じペースで進めていくはできない。お互い合意形成が必要。これは、企業の目線からも上司からの指示で行うより、やりがいを感じて行う業務が成果も良い傾向がある。 |
| 2       | 職業研究を早い段階から始めることで様々な進路を検討することができる。探究学習では、リーダーを設定することで目標を見失わずに学習を進めることができる。  | 教育の段階は失敗するのはOK<br>積極的に発言ができる生徒、苦手な生徒がいるなかで一律評価するのは難しい。評価する側は評価対象者のやっていることに向き合い、良いことも悪いこともフィードバックして上げる必要がある。                                       |
| 3       | 知識習得から活用へ 多様性 多様な考え 学校できっかけを得る 自分の視野を広げる 生徒が主体となる学び シブゴト  | 特別支援学校における魅力化 魅力化の意義とチーム内での共有 共通認識づくり 魅力化とは 福祉の業種における魅力化 福祉系業種の魅力のつたえかた 大人も子供も一緒にはなす、学ぶ 探求する喜びがこれからの社会を作る 探求する喜びや楽しさを引き出す、呼び起こす                   |
| 4       | 役に立つという体験や気づき   |   |
| 5       | 自分たちを引き出してくれる 質問してくれる テンションが明るい 寄り添ってくれる 丸投げ、ただ前に先生が座っているだけはちょっと… じぶんごと、挑戦したいという思い  | 探究的な学びは、何のためにあって、どんな力をつけさせたくて、どんな風に子どもたちが変容していけるかよのりを明確にする 具体イメージを共有する 対話する 話がまとまらないときには日をあける   |

【掲示板(全体共有)の一部】

## ■ アンケート結果

### 1 全員参加のグループセッションについて



### 2 全員参加のグループセッションの感想 ※原文のまま掲載（以下同様）

- ・高校生と同じテーマでフラットに話し合えるのはとてもためになります。ただ、高校生と教員では抱えている課題が違うので、テーマ設定が難しいと感じました。
- ・グループタイムがおもしろかった。高校生のありのままのことばもよかったし、「いい学びについて」という内容を高校生も交えて話し合えることが、有意義な時間だった。

### 3 フォーラムでは、どのようなことを期待されて参加しましたか。

- ・埼玉県他校の取り組みがどのように進んでいるのかを知りたかったのと、外部の方たちとのつながりを期待して参加しました。
- ・他県の高校生が探究の学びをどう感じているのか知りたかった。また、私は自身も探究や地域連携の知見を得たかった。
- ・学校を地域に理解してもらうためのヒントを得たいと思って参加した。

### 4 フォーラムに参加して、どのような学びや気付きはありましたか。

- ・探究学習を実施した生徒さんが「自ら考え、自ら行動したことが楽しい」という言葉を聞いたことは、探究学習本来の取組実践ができている証拠と感じました。この取組は必ず生徒さんにとってプラスになるので、実施を控えるこれからの学校へどのように広げるかが課題でもあると感じました。
- ・越境型の学びの必要性を再認識した。

### 5 フォーラムでの学びや気付きを実践（改善）するために、自分自身がまず取り組むことは何ですか？

- ・立場や環境等が違う人と積極的にコミュニケーションを図ること。
- ・何をするか、ではなくどうやってするかだと思うので、ひとつひとつやることの意味を考え、自分なりの考えをもってやりたい。

### 6 フォーラムの内容等について御意見がありましたら御記入ください。

- ・ブレイクアウトルームの参加について、大人（先生等）と子供（生徒）とを分けた方が意見交換がしやすく、学びもより深められたかなと思いました。
- ・グループセッションの内容が教員（学校）側によっていたように思います。参加企業の方にはどのようなWinがあったのか気になります。